

## 四国大学 大学COC事業における社会貢献

四国大学 大学COC事業では、地域連携・社会貢献策として、以下の取り組みを掲げています。

- ① 徳島県産の食品加工、栄養食品開発・販売支援事業
- ② 「地域がキャンパス」推進事業
- ③ 学校教育等支援事業
- ④ 美馬市観光交流センター事業
- ⑤ 学びのデジタルコンテンツ作成事業
- ⑥ 四国大学オープンカレッジ(SUDachi(すだち)講座)



# SUDachi Project NEWS Letter

No.5  
2016.12

## 地域志向型教育研究 活動報告 (2016.1-2016.9)

### 地域志向型教育研究としての社会貢献

地域志向型教育研究としては上記の①②③④に取り組んでいます。また事業の進展と共に、上記以外の社会貢献策にも取り組み始めており、成果を地域に還元するとともにその中で地域に貢献できる人材育成を進めています。

#### 1. 徳島県産の食品加工、栄養食品開発・販売支援事業

食用藍の機能性成分 (生活科学部)  
 阿波みかん発祥の地・勝浦町で学ぶ農家の課題解決 (生活科学部)  
 持続可能な発展のための地域MICE誘致 (生活科学部)  
 地域の企業・経済団体と協力の電子商取引 (経営情報学部)

#### 2. 「地域がキャンパス」推進事業

寺院文化財の活用 (文学部)  
 学生の書道の力による地域活性化 (文学部)

#### 3. 学校教育等支援事業

就学前児童への英語読み聞かせ (文学部)  
 舞台表現をベースとした地域活性化人材育成 (生活科学部)  
 世界の民俗スポーツ体験 (生活科学部)

#### 4. 美馬市観光交流センター事業

美馬市観光交流センター事業 (生活科学部)  
 地域貢献型人材育成のための体験型カリキュラム開発 (生活科学部)  
 藍染め・養蚕など伝統文化継承事業 (生活科学部)  
 学生の書道の力を地域活性化に活用する研究 (文学部)



### SUDachiプロジェクトとは？

[SUDachi] = Shikoku University Dream Achievement : 四国大学夢実現  
全学的な推進組織の体制を整備し、地域課題の解決に向けたカリキュラムの充実を図り、特色ある「地域貢献型人材」を育成します。

### 大学COC (Center Of Community) 事業とは？

大学と地域社会が連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める「地域のための大学」を支援することで、地域コミュニティの中核的存在として大学づくりを目指すものです。

先進的・地域貢献大学を目指して



地域教育・連携センター [SUDachi推進室]

〒771-1192 徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1

Tel.088-665-9953 Fax.088-665-9983

E-mail.sudachisuishin@shikoku-u.ac.jp

2016年12月発行

SUDachi Project NEWS Letter



# 地域志向型教育研究 活動報告 (2016.1-2016.9)



四国大学  
マスコットキャラクター  
じこほん



平成26年度の10件、平成27年度の11件に続き、平成28年度も「地域志向型教育研究」として地域活性化と地域課題解決に向けたプロジェクト10件を採択し、地域貢献型人材の育成に向けて、学生・教職員が一体となって学内外で活動しています。本号では平成28年1月から9月に行なわれた5件のプロジェクトをご紹介します。



## 徳島の食文化に関する研究 一次世代に伝え継ぐ徳島の家庭料理

徳島県の各地域で伝統的な家庭料理を聞き取り、再現し、継承していく取組です。今年度は那賀町の協力のもと、那賀町保健センターにて実施しました。地元のヘルスメイト、保健センター管理栄養士の方々から那賀町に伝わる伝統的な家庭料理や郷土料理を実習を通じて学びました。そして、それらの料理がいつ、どのような場面で食されてきたか聞き取りを行いました。現在では家庭で作られなくなった料理や地元ならではの料理を堪能し、あらためて食生活の変化を感じると共に、現代の食生活との違いを実感する活動となりました。

研究代表者  
高橋 啓子(生活科学部 管理栄養士養成課程)

研究分担者  
川端 紗也花(生活科学部 管理栄養士養成課程)  
三木 章江(短期大学部 人間健康科)  
後藤 月江(短期大学部 人間健康科)



## 「世界の民族スポーツを体験しよう！」 —地域貢献プロジェクトの企画運営を通じた人材育成—

近年、仲間と向かい合っって体を共に動かし交流を深める機会や、その機会を提供できる人材が求められています。そこで、地域の子どもを対象に交流型の世界の民族スポーツや遊びを体験する機会をもうけ、学生中心に企画運営しました。7月23日の水都祭では、ネパール、フランス、インドネシアのじゃんけん、イギリス、台湾、タイの鬼ごっこ、ブラジルのカボエイラ等を子どもたちと共に楽しみました。地域によって異なる遊びやスポーツ体験の支援を通じて、対象の子どもたち以上に、学生同士も仲間と共に新しい発見をし、交流が深まる好機となりました。

研究代表者  
細谷 洋子(生活科学部 児童学科)



## 学生の書道の技術・表現力を生かす地域貢献

東洋芸術の書道が持つ自然の力は人の心を引き付けると共に癒してくれます。本取組では、徳島県西部地区と南部地区の皆様の様々な要請に応じ、学生の書道の技術を活用する活動に取り組みました。写真上は、脇町の食事処「くるわか」の要請で店内を飾る様々な書を5名の学生が1点ずつ書いて提供したものです。店のコンセプトを書き、さらに「わ」を異なる文字4種で書き分けています。写真下は、美波町日和佐の「うみがめ祭り」で、書道パフォーマンスを披露しているところです。大勢のお客さまに楽しんでいただきました。

研究代表者  
太田 剛(文学部 書道文化学科)

研究分担者  
袁毛 政雄(文学部 書道文化学科)  
辻 尚子(文学部 書道文化学科)



## 精神障がい者との協働による 課題解決教育プログラムの開発

精神障がい者と共に、心に病気があっても住みやすい地域づくりについて考えるために、サッカーを通じた交流会と講演会を開催しました。サッカーは、四国大学女子サッカー部「イーグレッツ」の選手と看護学部の学生が参加しました。サッカーを通して交流することで、緊張がとけて楽しくコミュニケーションがとれました。特に「イーグレッツ」の選手は、相手を受け入れ、普通に接することが大切だと感じるとともに、そのようなことができるサッカーのすばらしさを改めて実感しました。講演会にも参加した看護学部の学生は、地域に必要な場や制度、同じ住民としての関わり方について考えることができました。どちらの交流会も全員が笑顔で楽しく参加でき、有意義な交流会となりました。

研究代表者  
藤代 知美(看護学部 看護学科)

研究分担者  
武田 道子(看護学部 看護学科)  
平田 英治(全学共通教育センター)



## 全学共通教育科目での地域教育的要素の 導入による学習効果の向上に関する試行

全学共通教育科目「言語と文化」では、講義時間を使って、近隣の徳島県立文学書道館で開催中の企画展と常設展に70名近い受講生が訪問しました。徳島県出身作家をとりあげた企画展では、学生が普段触れることのない作家の足跡や文学業績をたどり、作家を身近に感じることで、文学作品と地域文化のつながりを実感しました。また、常設展では、学芸員の解説とともに展示資料を鑑賞し、徳島ゆかりの文学者の文学活動について学習しました。なお、学生には学んだことをレポートにまとめて翌週提出させることで知識の定着を図った。通常行なわれる講義や文献による情報収集に加え、地域に根ざした文学という生きた要素を取り入れることで、言語に対する理解と共に、地域の文化に対する造形を深める時間となりました。

研究代表者  
佐々木 義登(全学共通教育センター)

研究分担者  
内山 有美(生活科学部 児童学科)

